

屋外でソープ 上巻

さらに もう一本!

ハーレム王への道

も同時収録!

R18



チ
チ
チ
チ
チ

チ
チ
チ
チ
チ



(…仲よき
結城くん…)

(何をあげたら
喜んでくれるんだろ…)

「一番乗り〜!」

ガッ



(はあ…
どうしよう…)



(あと二週間しか
ないのに…)

(まだ何も
決まっていなよ…)



「おはよう 春菜さん！」

「お おはよう ララさん…！」

ガラ…

「絶賛トキメキ恋愛中の

春菜 おっはよー！」

「…！」



「あれ？」
「残念…二番目か…！」

「あ ララさん…！」



「みお…」
「未央…」
「里紗っ！」

「おーっす♡」

「ララちゃん」

「おっはー！」

「おはよう！」



「なるほど」
「なるほど…！」

「な…」

「何なの…？」

「…」



「おや…？」

「あれあれ…？」

「な 何…？」



「もうすぐ愛しの
ゆっき
結城くんのお誕生日……」

「え……っ！」

「今年こそは
プレゼントを渡したい……」

「な……っ」



「でも 何をわたせばいいのか
わからなごの……」

「え……っ」

「春菜 困っちゃうっ……っ！♡」

「な……っ」



「ほいっ」

「これがリトの欲しい物だよっ」

×××××



「リトはねー
お花が大好きなんだ」

「綺麗……」

「ひゃー
金の花？凄っ」

「でもさー これ
地球の花じゃないよね？」

ララの発明品
立体映像君



「えっと 50万円ぐらいかな」

「……っ」

「なぬ……っ」

「……っ
……っ」



「びんぼりん♪
実はコレ 宇宙一綺麗な花で
おうんばな
『黄金華』っていうんだよ」

「……黄金華……
素敵なお花……」

「ちなみにこれって
売ってるの？」

「もっちゃん♪」

「えっと…… 地球の値段に
換算すると……」



「それじゃあ
早速ー」

「あ 待って
ララさん……っ」



「はなな
「春菜」諦めよう……」

「う……っ」

「地球の花の方が
馴染みがあつていいと思うよ……」

「えへへー 大丈夫！
私がモモに頼んで
貰ってきてあげるよ」

「…」



「はるな
春菜……」

「あ あかね…
ララさんの気持ちは
とても嬉しいの…」



「でも……」

「そこまでララさんに
甘えられないよ…」

「えー どうしてー？」



「大切な人への贈り物だから…
その…私一人で何とかしなきゃ…
…いけないかなって…」

「そっ それにね…」

「結城くん
に
伝えようと思うの…」

「私の気持ち…」



「だからね そのお花…」

「アルバイトして お金貯めて…
いつか結城くん
にプレゼントしたい…」



「お誕生日には…
間に合わなくなっちゃうけど…」

「はるな
春菜……」



「ララさま」



「ペケ」

「わたくし 先程の春菜さまの
お言葉にたいく感動いたしました…」



「『は借越ながら わたくしが
ララさまの代役を務めさせていただきます』」

「わたくしのハイテクネットワークを
駆使いたしました」



「2週間以内に50万円相当の
報酬が見込めるお仕事を探して」



「2週間で50万!!
ホントにそんな仕事
みつけれられるの?」

「楽勝です」

「さっすがペケ」

「よかったね 春菜」

「うん!!」



「ありがとう
ララさん」

「ひやひや」



「ありがとう
ペケさん」

「いえいえ」

「では リサーチの結果は
のちほど」報告いたします…」



「あ…あの…
ララさん…?」

「なめに
香菜」

「うん！そうだよー」

「わんわん」

「アルバイトの
紹介してくれるんだよね…?」



「どうして
お風呂に入るの…?」

「これはきゆうん
特訓のためだよ!」

「…特訓……?」

「つて 私も
何するの
よく分かってないんだけどね…」

「ホーン…
」からわたくしが
説明いたします」

「ベケ お願い」

「はあ……」

「それでは わたくしの
リサーチ結果を「報告
いたします」

「短時間で高報酬が望める
女性のお仕事ですが…」



「ありとあらゆる
職業を調べあげました所
その条件に該当したお仕事が…」

「うーん…
んき… んき…」

「ひとつだけ
みつけました」

「よかったあ…」

「ほー!」

「そのお仕事とは
ズバリ」



?

「……なんなの……」

「……うん……」



「風俗嬢ですっ!」



「メカは私で
プログラムは
ベケにお願いしたんだ」
「す」
「す」
「そんな事もできるんだ」

「カキ
コソ」



「まかせっ」

「これは 私の発明品の
出番だわっ!」



「やっぱり春菜も
わがうないまわっ!」

「……うん……」

「じゃーん！ 万能アイテム
『これであなたも
風俗嬢』カチューシャと」

「ぎじぎじ
『擬似擬似ちんぽくん♡』だよー！
(リトのモノ参考)

「ちんぽ」

「え……っ」



(私の聞き間違い
だよわ……っ)

「え……えいと……
そ……それは
どうやって使うの……っ」

「おちんちんと
同じ使い方だよー♡」

「えへへへ
リトのおちんちん
そのまんまロビィしたんだい♡」

「ゆ……結城くんの
おち……っ」

「おち……っ」

「もし私が
つけるやつで」

「毒薬のは
「カチューシャ」

「カチューシャ」

「え……っ」







「う…動いてるーっ!」

ララの発明品
『これであなたも風俗嬢』カチューシャ
装着するだけで
プロの風俗嬢の
テクニックが身につく
レクチャーボイス機能付き



「かっ…体が
勝手に…」

オ…



「わっ
わっ
な…何これ…」

ス…
ス…



「…ん…?」



「おっ…」

「おっ…おっ…おっ…」

「お…お…」

「お…お…お…」

「ウイン…
「レースニー
スタートします」

(お…おんで
ララさんど…ていおの…)



「手」キプレイ
開始

「ふさっ♡♡
キキキ♡♡

「はぁ...♡」

「...っ 手が勝手に
動いている...」



「ラ... ララさん...
っ♡ っ♡ っ♡...」
「さ... さ... 大事な所
触らっ♡...」
「... 痛らっ♡...」

「あ...♡ あまん...♡
ん...♡ あまん...♡ っ♡
ん...♡ あまん...♡ っ♡

「香... あまん♡」

「ん...♡ あまん...♡
ん...♡ あまん...♡ っ♡
ん...♡ あまん...♡ っ♡

「っ♡ 手が勝手に
動いている...」

「...っ 手が勝手に
動いている...」

「あ...♡ 止まらな...」

「あ...♡ 止まらな...」



「お客様の反応良好…」
「続いてアナルを
刺激します」

「ひゃああん…っ♡」

「や… 蘇葉…
…お…
た…
た…」

「ア…
ア…
ア…」



「フェラチオ開始」

レロ



「ん…っん…っん…っ」

「（やだ…っ… こ…
お…お嫁にいけなくなっちゃうよお…
もお…誰か助けてえ…っ）」

「あ…
あ…」

「蘇葉…
…お…
た…
た…」

「ア…
ア…
ア…」



「ああん…っ♡」

ビク



「男性器の最も敏感な箇所をピンポイントで刺激(強)します」

「はあああん……♡」

「この時 耳を塞いで刺激ポイントを増やして快感のせきめを味わって」

「この瞬間です」

「ん……♡」

「射精の導き手」

「んっんっ」

「まだ手を緩めなからっ」

「あ……♡」
「え……♡」
「んっんっ……♡」
「んっんっ……♡」
「んっんっ……♡」
「んっんっ……♡」

「射精の兆しがみえてきました」

「な……♡」
「な……♡」
「な……♡」
「な……♡」
「な……♡」
「な……♡」

「んっんっんっ……♡」

「お……♡」
「お……♡」
「お……♡」
「お……♡」
「お……♡」
「お……♡」

「んっんっ……♡」

「射精を確認」

「勢いよく精液を
発射しています」



「うにゃあぁ〜」

「……おはなすは」

「はるな
春菜……?」



「はぁ……はぁ……」
「やうと……開放された……」

「あ」「……」の由らるる
せ……精液……」



「わーわー」
「また出てくるよ 止まんないよ……」
「突然手ロキギ
止めなばらうに注意してんたさ」

「殿方の射撃が
終わりました」
「のあたりかき
徐々「スー」を
おとしてしまさま」



「こんな
気持ちいいんだあ
おちんちんって……」

「やみつき」
「なうちちぢぢぢおっ♡」

「あれ……?」



「ぞうだっ」

「ねえっ」
「春菜もつけてみないっ?」



「おおっ！すげえ」

「まっまじっ」

「うおっ」



「裸のまま屋外に出ちゃったーっ！」

「た大胆なコ」

「うん」

「おっ！しかもワイワイ」

「うおっ！千川先輩」

「うおっ！お見込み」

「うおっ！千川先輩」

「はっ！裸っ」

「びっくり」

「いやあああ…っ！」



「恥ずかしくて死んじゃうよあ…」

「え〜ん」

「いやあーいやあー」

「男性器探索中…」

「おえおえ
オレと遊ぼうよ」

「うおっ、マジタイフ」

「おっ！おっ！おっ！」

「みんな見ないでっ」

「おっ！おっ！おっ！」

「おっ！おっ！おっ！」

「おっ！おっ！おっ！」

「おっ！おっ！おっ！」

「おっ！おっ！おっ！」



(うちの学校の制服...!)

あ...!

やん!

私もう生きていけない!

こんな所 結城くんに見られたら...!



ゆ...

結城くん...!

古里川さん...!



やだやだ... 止まって...!

あ...!

あ...!

あ...!

あ...!





「え…?」

カチカチ

カチカチ



「なんたあ…」

「まっまだ
おちんちん…」

「まっまだあ…」

「うお…」



「は…?」

「く…?」



「おお ホントだ…」

「西連寺…」

「まっまだ
猿山くん…」

「まっまだあ…」

「ハア」



「オレ…女の目の裸
生で見るの…初めてなんだよなあ…」

「はぁっ♡ はぁっ♡」

「おっ…さんなのオレも
同じだよ…」

「はぁっ♡ はぁっ♡
さ…西連寺
たたまんねえよ…」



「はぁ…♡ はぁ…♡
こんなかわいい「コ」
手コキしてもうえるなんて
夢の様だよ…」

「はぁ…♡ はぁ…♡
さ…西連寺が
「おっぱいをたたくんだよ…」

「う…連…」

「私痴女なんかじゃ…」

「へへ…「コ」は悪いが
「はぁ」の「お」
「さっ」が「う」なの♡」

「おっ…「い」なぞだ…♡
おまめま「コ」の「お」が
「さ」まんぞ…
せ…責任取れどもうわおええぞ♡」

「はっ…
「お」は「か」キュー「の」は「お」の「お」
「さ」だ…
「お」へ…「お」が「お」だ…」



「はぁ♡ はぁ♡
「お」は「い」の「お」
「さ」…」

「だめ…♡
「さ」…」

「さ…西連寺
おっ…おっぱい「さ」触ってもいいよ…」

「…さ…さ…」

「い…い…♡
「さ」触れちやう…」

「ゆ…結城くん 助けて…」



「規定違反発生！」

「本人の承諾なしに
身体に触れるのはNGですっ！」

「よって罰則として
強制射精させて頂きます！」

「んんんっ！」

「あべううっ！」

「あひひひっ！
っっっ強っ！」

「筋力増強モード突入！
握力が3倍に上がりました」

「これにより
超高速フェラや手コキが可能となり
通常の5倍の感度が
男性器に襲いかかります！」

「ちゅっちゅんほが
もげろっ！」

「さらに感度を跳ね上げます！」

「亀頭と小帯のみを
激しくピンポイントで
高速刺激します！」

「あべあああっ！」

「今まで味わった事のわり
快感地獄をぐぐぐ
ご堪能ください！」

「いぎいぎっ！
チュッ
いぎいぎっ！」



「ああっ！
ぎいっくっ！」

「射精のちがみえごまごまご」

「射精の際 さらに激しい
快感が男性器に襲いかかりますので
ご覚悟ください！」

「うぎいぎっ！」

「精液が玉袋を射射！
います！」

「あばあ
あああああっ！」

「まやあああっ！」

「身体を大きく仰け戻らし
奇声をあげながらの射精を確認
あべあああああっ！」

「あべあああああっ！」



「なの 強制射精モードは
お多岐の五袋が空になるまで継続します」

「もっ もっ 出たっ…っ！」

「射精直後で敏感になつて
男性器ハイターバルを
強い刺激を与えてくれると」

「あひりっ…！ もっもっ
許してえ…ひあ…っ！
くれえ…っ！」

「これにより射精の際に
どきどきする快感が
長時間続きます」

「あが あが…っ！」
「おっおっおっおっ
終つたわい射精では
男性に…っ！」
「一番の生き地獄です」
「精神崩壊にご注意ください」

「ええっ まだ続くの…っ！」



「いひいあ…っ！」

「止まんない…っ！」

「おちんちんの
びくびくが
止まんないよあ…っ！」



「(な なんか分かんないけど…
助かったみたい…)」

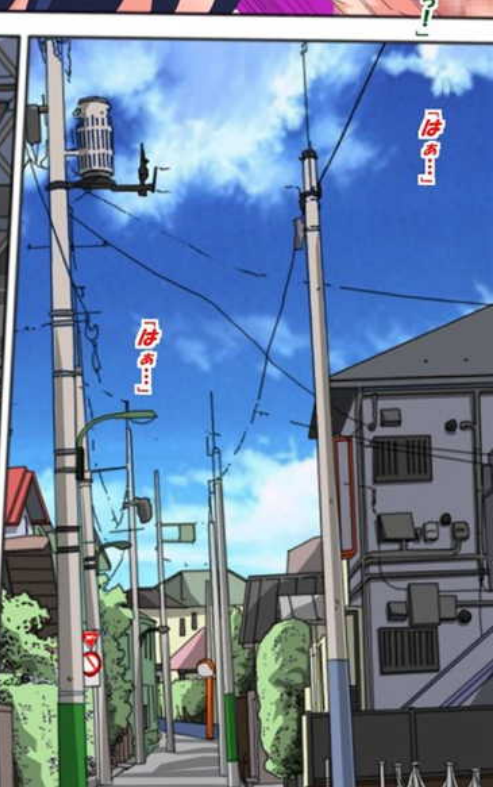
「怖かった…」

「くっ…お嬢ちゃん
最高だねえ♡」
「っ！」



「やっと 止まりました…」

「(二人共…
おちんちん勃たまま
気絶した…)」



「はあ…」

「はあ…」



「オオしも協力するよ」

「そんなに ちゃん好きなら オシのも使ってくれよ」

「はあ、はあ、おあ、おあ...」

「ごっちも ようしく頼むよ」

「.....?!」

「.....(.....)」

「いつの間にか...こんなに人が.....」

to be continued.

「この話は、オレがハリー王子になるまでの
全記録をのめたものである…」

「まずそのまじっかけとなったのが
発明少女ララちゃんから
盗み出したこの発明品である…」

「どうしたんですかあ？」

たた、
たた、

「こんな素敵空間(保健室)に
呼ばれたらなやう…」

ガラ
「失礼します…」

(まじっ)
(来たあ…?)

ポリポリ

「イトさん♡」

「い…いやあ
モ…モモちゃんや
二人きりに…
な…なりたくて…」

「ララの発明品
クリツツくん
人の姿をくりくりのまま
コピーする事ができる」

「これで あの手城リ…
なりすまして ひひひ」

(へへへ… 成功
マジでオレの事
結城リトに見え

(ああの性
学園のマイ
とオレは今

(あ…モ
なんてか

「わ私と二人きりに
なりたいだなんて…♡」
「さあ♡どうさま♡
いきなりキスとかされちゃったりして♡
なんでリトさんに限ってそんな事ないよな
残念だけど…」





いただきい……っ♡!

ブズッ

「んん……っ!」



「モチちゃんのファーストキス……」

「え……?」

(もっ、もっと耐えられん……!)

(甘んじよう……!)

(なまめ、なまめの唇……♡)

(ほろほろと、ほろほろと……)



巨大マッシュマロ
ゲットオマツ♡!

モリユ

「あああんっ♡」



(ぞして……)

チリ

(か……身体たて
触っちゃうもんね……♡)
(細え……女のこの身体で
こんなに細いのかよ……♡)

モチちゃん♡

(モチちゃんの唇……♡)
(モチちゃんの唇……♡)
(モチちゃんの唇……♡)
(モチちゃんの唇……♡)
(モチちゃんの唇……♡)



「はあん……♡」

ピク

「あ……♡」

(ぜ 全然抵抗しねえ……♡
マジかよ……結城リトの奴……♡
こんな毎日ハイレム環境でありながら
何にもしねえなんて
マジありえねえ……♡)



「ひゃあああんっ♡」

ピク

あっぱいっ♡あっぱいっ♡あっぱい

あっぱい

ピク

(これからは
オレが結城リトだ……♡
マチ子野郎に成り代わっ
オレがハイレムを築いて……♡)



「わあ……」

「あ……おま……」

「……」

「リトさん……？」

「あ……おま……」

「あんなに綺麗な女の子……」

「リットさん……」

「何を……」

「あ……」

「リットさん……」

「わあ……」

「アッ」

「あ……」

「まわがだ……」

「ひやああ……」

「アッ」

「アッ」

「アッ」

あんなに...
結城リトさん先!
モモちゃんの外女...
あんなに...
あんなに...
あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...

おしは口頭か?
あいつを憎んでいんだ...
あんなに...

あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...

あんなに...

あんなに...

学園の美少女...
あんなに...
あんなに...

おまけに...
同じ屋根の下...
そんな事が許されてはまるか...
あんなに...

あんなに...

あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...

あんなに...

あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...

まさか...
モモちゃんに
種付けだ...
あんなに...

モモちゃんに
オレの子を
孕ませてやる...

あんなに...

あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...

あんなに...

リトさんが
私を...
認めてもらうまでは...

あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...

あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...



「おあうっ!
すっげえ出るぜえっ!」

「ヒュールルッ
ヒュールルッ
ヒュールルッ」

「オレの精液で
モモちゃんの内股
いっしょにしてあげるねっ!」

「薄っぺらいっ...っ!
溢れちゃうっ...っ!
リトさんの手で
私あふれちゃうまっ...っ!」



「あんなに女の産卵
（排卵）するのって...」

「リトさん... 嬉しいけど...
リトさんが『ハーハーッの聲』
を聞くたびに...」

「ハーハーッ?
なに... いいなそれ...」

「おまじの産卵が
犯して犯して犯しまわってさあせよっ!」

「リトさん... それでいい
いいアイテムがあるま」



「わ...わ...わ...っ!
わびげずががま...っ!」

「(今日... 危ない日
だった...!）」

「...ま... い...」

「(おっ... リトさん...
私の事... 別腹で)
選んでくれたん...」



「おっ... い...」



「結城リトの、おっぱい...」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」



「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」

「あーっ」